

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】  
 調査の対象 台東区浅草小学校 第4学年  
 実施日 平成31年4月17日

## 第4学年 国語

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	50.9
	話す・聞く能力	74.5
	書く能力	41.8
	読む能力	72.7
	言語についての知識・理解・技能	45.4

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

国語の「関心・意欲・態度」における通過率が50%と低い。「書く能力」や「言語についての知識・理解・技能」においても50%を下回っている。

言葉の学習で、「ローマ字のつづりを理解している。」では、正答率が30.9%とかなり低い。

話すこと聞くことでは、「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることができる。」が22.7%とかなり低い。

書くことでは、「指定された長さで文章を書くことができる。」「2段落構成で文章を書くことができる。」が共に、36.4%と低い。

昨年度の取組の検証

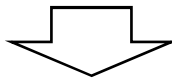
登場人物の心情を、叙述をもとに丁寧に読み取り、話合いで深めることにより、読む力は少しずつ伸びてきた。

既習漢字の復習テストや、作文や感想文で、漢字を使って書く指導をした結果、読んだり書いたりする力が付いてきた。

漢字の読み書きの問題では、1問だけ目標値を下回ったが、他は上回っている。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
国語	言葉の学習 ・ローマ字が書けない。 話すこと、聞くこと ・聞き取った内容から、質問を考えることができない。 ○文章を書く ・指定された長さで文章を書いたり、目的や必要に応じて文章を書いたりすることについての正答率が低い。	ローマ字のつづりを理解していない。 質問と答え方の関係を理解していない。 大事なことを落とさず、簡潔にまとめることができない。



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

国語	関心・意欲を高めること ・単元終末の言語活動について必然性があるものを児童とともに設定することによって、単元導入の意欲付けをするだけでなく、単元終末まで意欲が継続するようにしていく。 ローマ字で書くこと ・ローマ字の復習をスキルアップタイムで行う。 ・パソコンでのローマ字入力にも慣れさせ、ローマ字を使う機会を多くする。 作文を書くこと ・授業の中で要約したり、感想や自分の考えを決められた文字数でまとめたりする学習を行う。 ・週末の日記は今後も続け、書くことに慣れさせる。 ・作文指導では、「書きたいことを明確にする。」「事実と意見を区別して書く。」「指定された長さで書く。」など条件を付けて書かせる。
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

定期的に「ローマ字テスト」を行い、全ての児童が、80%以上の正答率を出せるように、繰り返し実施する。

「作文を書く」力については、児童が書いたものを毎回添削し、よい書き方などを示して書き方を学ばせるようにする。9割の児童が、時間内に自分の考えを書けるようにする。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第4学年

実施日 平成31年4月17日

## 第4学年 算数

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	60.0
	数学的な考え方	72.7
	数量や図形についての技能	72.7
	数量や図形についての知識・理解	65.4

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

観点別評価と正答率では、数学的な考え方が、目標値を上回っているが、数量や図形についての技能、知識・理解は下回っている。とくに、知識・理解は6ポイントも下回っている。

領域別評価と正答率では、数と計算、量と測定が下回っている。

記述問題では苦手意識が高い。棒グラフの1めもりが1さつを表していることをもとに説明する問題では、正答率が27.6%と低く、無解答が41.8%と高い。

昨年度の取組の検証

ステップアップタイムや宿題等で、「九九」や「くり下がりのひき算」を繰り返し練習する機会を作ってきた。結果、「計算の復習」や「たし算・ひき算」の問題は、目標値を上回ることができた。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
算数	数と計算 《大きい数・小数・分数》 ・小数のしくみを理解していない。 ・分数の数直線上の表し方について理解していない。 数学的な考え方 《時こくと時間》 ・ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができない。	数直線上で、1より小さい数を小数や分数で表すこと、小数や分数の大きさを比べることができていない。  問題を読み取ること、解決の見通しをもち道筋を立てて考えること、自分の考えを図や言葉を使って分かりやすく表現することができていない。

### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

算数	数と計算 《大きい数、小数、分数》 ・毎時間の授業において、知識・理解の習得だけで終わらず、適応問題に取り組み、技能の定着を図る。また、家庭学習や朝学習でも、練習問題に取り組みさせる。 数学的な考え方 《時こくと時間》 ・問題文をよく読み、「分かっていること」「求めること」に下線を引くなどして、問題場面を読み取るようにする。そして、既習事項を活用し、解決の見通しをもたせる。 ・自分の考えを図や式、言葉などを使って分かりやすく表し、説明させる。 ・問題を自作して、理解を深める。 ・時刻や時間の概念は、児童の日常生活の中から身近な場面を取り上げ、具体的な指導を図る。その具体的な場面と模型時計の操作や数直線とを相互に結び付けることで、理解を深めさせる。 ・既習内容の時計の読み方や時刻の単位、またそれらの関係を復習し、時刻や時間を求める計算の仕方を理解させる。
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

全ての児童が、レディネステストで正答率80%になるよう複数回実施し、確認する。

自分の考えをノートに書かせたり説明させたりして、評価していく。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】  
 調査の対象 台東区浅草小学校 第5学年  
 実施日 平成31年4月17日

## 第5学年 国語

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	55.8%
	話す・聞く能力	72.0%
	書く能力	53.4%
	読む能力	76.7%
	言語についての知識・理解・技能	88.3%

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

3つの観点で70%を超える通過率である。特に「言語についての知識・理解・技能」においては、通過率が9割近くに達している。

「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」は、他の観点に比べて低い。

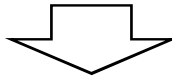
昨年度の取組の検証

昨年度、「言語についての知識・理解・技能」において、目標値を超えた児童は58.1%であったが、既習漢字の復習テストや、作文や感想文で、漢字を使って書く指導をした結果、今年度は通過率が30ポイント以上増えた。

昨年度の「書く能力」の通過率は60.4%であった。「作文を書くこと」について、授業の中で要約したり、感想や自分の考えをまとめたりする学習や、「書きたいことを明確にする。」「書こうとすることの具体例を挙げて書く。」など、条件を付けて書くことに取り組んだ。しかしながら、前年度より目標値を下げる結果となった。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
国語	○国語の学習に対する関心・意欲が低い。  文章を書く ・指定された長さで文章を書く、資料から読みとったことを書くことについての正答率が低い。	国語を学習することの必然性や意欲をもって臨む姿勢が不十分。  自分の考えを、決められた文字数でまとめる力や、資料を分析し、そこから分かることを自分の言葉で分かりやすくまとめる力が不十分。



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

国語	関心・意欲を高めること ・単元終末の言語活動について必然性があるものを児童とともに設定することによって、単元導入の意欲付けをするだけでなく、単元終末まで意欲が継続するようにしていく。 文章を書くこと ・授業の中で要約したり、感想や自分の考えを決められた文字数でまとめたりする学習を行う。 ・読み取った内容を、整理し再構成する練習をする。 ・学習や行事、日常の活動での感想を短時間でまとめる。
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

学習後や行事、日常での活動の感想や、テーマ作文などを毎回添削することで検証する。

個々の力や補うべき部分を把握し、以降の指導に役立てる。

7割の児童が目的に応じた文章を書けるようになる。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第5学年

実施日 平成31年4月17日

## 第5学年 社会

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	69.7%
	社会的な思考・判断・表現	51.1%
	観察・資料活用の技能	48.8%
	社会的事象についての知識・理解	69.7%

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

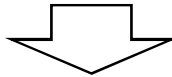
全体的な状況の説明

観点別では「社会的事象への関心・意欲・態度」の通過率が他に比べて高い。

「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」は、50%前後の通過率である。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
社会	<p>○観察・資料活用の技能</p> <p>&lt;安全を守る活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故を防ぐためのきまりについて、資料をもとに読み取って、表現する力が不足している。</li> </ul> <p>&lt;先人の働き&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の発展に尽くした人々に関する正答率が低い。</li> </ul>	<p>警察の仕事への理解が不十分であるとともに、交通事故を防ぐためにできることを、自分なりに考える力が不足している。</p> <p>複数の資料を読み取り、関連付けて考察する力が不足している。</p>



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

社会	<p>○観察・資料活用の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「観察・資料活用の技能」の能力を高める。そのために、デジタル教科書やデジタル教材を利用して、写真や動画などの視聴覚資料を活用する場面を作る。違いや変化に着目して、資料から読み取ったことについて、話し合ったり、それを簡潔にまとめたりする。</li> <li>・学習内容について、より身近に感じられるように、日常生活で社会学習に関する事象取り上げる。それらを資料と結び付けて思考できる力を付ける。</li> </ul>
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

授業中の発言や話し合い、ノートの学習感想などを評価の観点とする。観察・資料活用について9割の児童が自分の考えや感想を書けるようにする。

単元テストにおいて、「社会的な思考・判断・表現」、「観察・資料活用の技能」の正答率80%を指標とする。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第5学年

実施日 平成31年4月17日

## 第5学年 算数

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	43.1%
	数学的な考え方	63.6%
	数量や図形についての技能	72.7%
	数量や図形についての知識・理解	63.6%

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

算数への関心・意欲・態度の数値が低いものの、他の観点は目標値に対する通過率が60%を超えている。

「数量や図形についての技能」は、70%を超えている。

昨年度の取り組みの検証

前年度、「数学的な考え方」の通過率が5割を下回ったことから、文章問題に時間をかけて取り組んだ。「分かっていること」「求めること」を明確にし、自分で考える時間を十分確保するとともに、友達と学び合う時間を設けたことにより、前年度より目標値を超えた児童が20%近く増えた。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
算数	数と計算 ・分数について、平均正答率が目標値を下回っている。	位取りをして正確に読み取ることや、数の相対的な大きさについての理解が不足している。 数直線上に示された分数の読み取り、分数・整数の大小順が理解できていない。
	量と測定 ・角の大きさや面積を求める設問に対して、平均正答率が目標値を下回っている。	角の大きさについての見当を立てる力が不足している。 面積を工夫して求める力が不足している。
	図形(いろいろな形) ・直方体の性質を求める設問に対して、平均正答率が目標値を下回っている。	直方体のある辺に垂直な辺を理解できていない。

### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

算数	数と計算 ・数直線を使って、分数の大きさを理解させ、大小関係を捉えられるようにする。仮分数や帯分数の意味を理解し、帯分数から仮分数、仮分数から整数、帯分数への直し方を復習する。
	量と測定 ・角度を実際に測る際に、90度より大きいのか小さいのか、見当をつけさせてから測るようにさせる。また、分度器の使い方を再度確認し、角度を測る問題に繰り返し取り組むようにさせる。
	図形 ・ある面に対して平行な面や辺、ある辺に対して平行な面や辺を、立体模型を使って実際に確認し、見取り図からでも、辺や面の関係が分かるように繰り返し練習する。

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

理解が不十分な児童に対しては、担任と学力向上推進ティーチャーで学習中や休み時間等に個別指導を行い、確認テストの正答率が80%になるよう複数回実施して確認する。

レディネス問題や東京ベーシックドリルの問題を行い、正答率80%を指標として確認する。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】  
 調査の対象 台東区浅草小学校 第5学年  
 実施日 平成31年4月17日

## 第5学年 理科

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.9%
	科学的な思考・表現	63.6%
	観察・実験の技能	79.5%
	自然事象についての知識・理解	75.0%

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

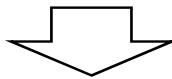
「観察・実験の技能」と「自然事象についての知識・理解」の通過率は、75%以上となっている。

領域別では「生命・地球」と「物質・エネルギー」に課題がある。「動物のからだのつくりと運動」「1年間の動物の様子」

「物のあたためり方」「電気のはたらき」の思考・判断を問う設問では、目標値を15ポイント近く下回っている設問もある。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
理科	生命・地球 「1年間の動物の様子」「1年間の植物の生長」 ・オオカマキリの1年間の様子や、秋のサクラの様子を問う設問が目標値を下回っている。  「動物のからだのつくりと運動」 ・ウサギの背中が丸く曲がる理由を考える設問について、目標値を下回っている。  物質・エネルギー 「物のあたためり方」 ・あたためられた空気についての設問が目標値より20ポイント以上下回っている。 「電気のはたらき」 ・電流がどのように流れるかについての設問が目標値より下回っている。	動物や植物がどのように成長をしていくか、一連の流れが理解できていない。  骨は、関節によって曲がることなど、動物の体のつくりについての理解が十分でない。  あたためられた空気がどのように動くかの理解が十分でない。  乾電池の向きやつなぎ方を変えたとき、それにともない電流の向きと強さがどう変化するか理解できていない。



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

理科	「生命・地球」 実物を見て観察することが難しい面もあるので、教科書の写真や動画などを使い、動物や植物の成長の様子を視覚的に捉えさせるとともに、気が付いたことを記録させ、1年間の成長をまとめさせる。 「物のあたためり方」「電気のはたらき」 5年「電磁石の性質」の単元を学習する前に、3,4年で学習した電気の単元について確認をし、復習をして振り返りのテストを行う。また単元の学習の中でも電流の向きや強さを確認しながら進める。 5年「物のとけ方」の単元を学習する際に、物のあたためり方について確認、復習をし、振り返りのテストを行う。またイメージ図などを利用したり、見えない物が見えるようにする教材を工夫したりして視覚的に捉えさせ、理解を深める。 思考・判断の能力 各単元で実験の仮説や考察を自分の言葉で書く場面を増やす。なぜそう考えるのか、結果から何が分かるか考えて、書く習慣を付ける。
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

3,4年生理科単元について振り返りワークを行わせ、正答率80%を指標として確認をする。

自分の考えを言葉と絵を使って表現し、8割の児童が自分なりに考えを説明できるようにする。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【全国学力・学習状況調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第6学年

実施日 平成31年4月17日

## 第6学年 国語

### 1 結果の分析

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	65.4
	話すこと・聞くこと	73.1
	書くこと	55.8
	読むこと	84.6
	言語についての知識・理解・技能	67.3

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

国語への関心・意欲・態度については、質問用紙の「国語は好きですか」という問いをもとに通過率を出した。

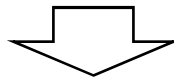
#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

- ・「書くこと」の通過率が55%と低い。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語についての知識・理解・技能」について、全体的に平均を上回っている。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
国語	「書くこと」 ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、くわしく書くことに課題がある。  「言語についての知識・理解・技能」 ・ことわざや慣用句などの正答率が低い。	語彙力にも課題があるが、書きたいことを整理して、文章全体の構成を工夫して表現する力が身に付いていない。  ことわざ・慣用句の意味を理解したり、使い方が十分に身に付いたりしていない。



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

国語	「書く」能力 目的や意図に応じて、事柄を整理し、読み手に伝わるような作文を書く機会を、学期に1~2回以上、また、日常のできごとや日々の所感を随筆風に綴る活動を取り入れる。 自分の意見を明確にし、その意見が効果的に伝わるように文章全体の構成を工夫して書けるようにする。 「言語についての知識・理解・技能」能力 ことわざや慣用句に関心をもたせ、朝学習の時間などを使って復習し、習得していくようにする。
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

「書く」能力については、子供達を書いたものを毎回添削し、7割強以上の児童がよい書き方を身に付けられるようにする。漢字は、ワークテストにおいて正答率80%の達成を目指す。

「言語についての知識・理解・技能」能力については、国語以外の授業でも教員が意識して繰り返し指導し、ワークテストにおいては正答率80%の達成を目指す。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第6学年

実施日 平成31年4月17日

## 第6学年 社会

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	社会的事象への関心・意欲・態度	61.1
	社会的な思考・判断・表現	61.1
	観察・資料活用の技能	61.1
	社会的事象についての知識・理解	59.2

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

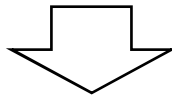
評価の観点別に見ると、どの区分においても通過率が約60%である。

内容別でみると「日本の国土と人々の暮らし」「工業生産と貿易」「わたしたちの生活と情報」は目標値を上回ったが、「世界の中の国土」や「わたしたちの生活と環境」では、下回る結果となっている。

「基礎」と「活用」では、「活用」の正答率が目標値を上回っている。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
社会	<p>国土の自然などの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界の主な大陸の位置や名称」「世界の主な国の位置と国旗」「日本の領土」「森林資源の育成や保護に従事している人々がかかえる問題」についての理解が十分でない。</li> </ul> <p>わたしたちの生活と環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然災害の発生場所」「災害が発生した際の対応」への考察、理解が十分でない。</li> </ul>	<p>世界の主な大陸の名称や位置について興味をもてず、国土の気候についても、資料・グラフなどから関連させて理解することができない。</p> <p>地図や資料の中から必要な内容を選んだり、地図や資料の内容から考察したりする力が育っていない。</p> <p>自然災害について近年、日本で起きた自然災害の発生場所について理解をしたり、災害が発生した際の対応について考えを深められたりしていない。</p>



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

社会	<p>「観察・資料活用の技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の資料を常に手軽に提示できるように、電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などの設備を整える。また、資料を読み取る観点を明確にし、複数の資料を関連付けて活用できる力を身に付けさせる。</li> </ul> <p>「社会的事象についての知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の学習の中で、教科書、資料集、地図帳など複数の資料を活用し、関連付けて読み取り、理解を深める。また、押さえない事象、語句等について復習し、理解を定着させる。</li> </ul> <p>正答率が低い児童に対して</p> <p>授業中に机間指導をこまめに行い、個別重点的に支援するとともに、グループやクラス全体での話し合いを活性化して、たくさんの考えに触れる学び合いを大切にする。</p>
----	---

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

○資料を活用する学習を重ね、ワークテストの「社会的事象についての知識・理解」の正答率80%を目指す。

ワークテストの正答率40%未満の児童1割未満を目指す。



# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【全国学力・学習状況調査】  
 調査の対象 台東区浅草小学校 第6学年  
 実施日 平成31年4月17日

## 第6学年 算数

分類	区分	平均正答率(%)		
		本校	東京都	全国
評価の 観点	算数への関心・意欲・態度	今回は設問無し		
	数学的な考え方	66.6	65.5	62.2
	数量や図形についての技能	82.7	77.2	73.6
	数量や図形についての知識・理解	73.1	72.7	70.1

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

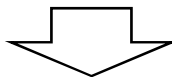
全体的な状況の説明

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」、どの領域においても全国平均を上回っている。

[児童質問紙]では、算数の勉強は好き・大切だと思う、また授業の内容はよく分かるが東京都・全国の平均値を上回っているにもかかわらず、問題を解くときにいろいろな方法や簡単に解く方法を考えることにはあまり興味をもてていないことが分かった。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
算数	<p>数と計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるのかを書く問題において正答率が低い。</li> </ul> <p>○図形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ問題の正答率がやや低い。</li> </ul> <p>数量関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1980年から2010年までの10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフから分かることを選ぶ問題においての正答率がやや低い。</li> </ul>	<p>計算問題において、計算方法や公式が分かれば答えを出すことができるが、演算の意味に基づいて計算の仕方を考え出すことができない。また、自分の考えや資料から分かることを自分の言葉でまとめたり、説明したりすることができない。</p> <p>設問の意図を読み取ることができていない。また、設問の条件を図形の性質に結び付けて考えることができない。</p> <p>資料の数値から分かることや数量の変化が意味することについて推測する力が付いていない。</p>



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

算数	<p>数と計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算の仕方を演算の意味に基づいて理解させ、習熟の時間を意図的に増やす。</li> <li>教科書の問題を解いた後に、類似の補充問題を用意して習熟させる。</li> <li>問題の読み取りに重点を置いた指導を行い、自分の解き方を説明させる時間を十分にとる。</li> </ul> <p>○図形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質や省略記号について確認する。示された図から条件を読み取り、図形の性質と関連付けながら考えられるようにする。</li> <li>家庭学習の機会や朝学習 モジュール の時に、繰り返して問題を解かせ、定着を図る</li> </ul> <p>数量関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し、資料から読み取ったことを図や表に表すことで、変化や関係に着目して意味を理解できるようにする。</li> <li>資料から必要な情報を読み取る力を付けるために、理科や社会など、別教科においても資料の読み取りを丁寧に取り組む。</li> </ul>
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

答えを導くだけでなく、導いた過程を説明させたり、ノートに記述させたりする。また、集団での話し合いや互いの考えの検証に進んで取り組ませるようにする。

○プリントやワークテストの結果については、正答率80%の達成を目指す。

# 令和元年度 「浅草小学校 台東区授業改善推進プラン」

調査の概要【台東区総合学力調査】

調査の対象 台東区浅草小学校 第6学年

実施日 平成31年4月17日

## 第6学年 理科

分類	区分	通過率(%)
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.3
	科学的な思考・表現	64.2
	観察・実験の技能	43.4
	自然事象についての知識・理解	54.7

### 1 結果の分析

通過率は、目標値以上の正答率であった児童の割合。

#### (1) 結果の概要

全体的な状況の説明

「観察・実験の技能」の通過率が50%を下回っている。

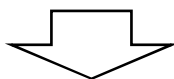
領域別では「人のたんじょうぶ」「植物の花のつくりと実」「けんび鏡の使い方」「ふりこのきまり」に課題がある。

「けんび鏡の使い方」「ふりこのきまり」の技能を問う設問では、目標値を大きく下回っている設問もある。

各領域において、「科学的な思考・表現」を問う問題は全体的に目標値に達している。

#### (2) 結果から明らかになった課題

	個別の状況(課題)	解決すべき課題
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「植物の花のつくりと実」のおしべとめしべや花粉について正答率が低い。</li> <li>・「けんび鏡の使い方」について、カバーガラスの役目や正しい使い方の手順における正答率が低い。</li> <li>・「ふりこのきまり」の振り子の周期を求める問題で実験の結果から言えることの内容を記述することに課題がある。</li> </ul>	<p>観察したことをきちんと整理して結果をまとめたり、自然事象と結び付けて考えられたりしていないため、学習したことが定着していない。</p> <p>実際の器具の操作と説明がうまく結び付いていない。また、技能として定着していない。</p> <p>実験のねらいを正しく理解する力や、実験の予想と結果から考察する力が身に付いていない。</p>



### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

理科	<p>6年「植物の成長と日光のかかわり」「植物の成長と水のかかわり」の単元を学習する際に、3年～5年までで学習した植物関連の内容について復習をし、確認テストを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験の際、手順や器具の使い方等を正しく示し、実際の場面で丁寧に指導する。</li> <li>○問題、実験方法、予想、結果、考察、結論を自分の言葉でノートに書き、説明できるようにする。</li> <li>○観察や実験をする事柄を確認することや、結果を見通して実験をする意味を考えたり、実験の結果から考えられることについてまとめたりする学習を設けることで、自然事象や現象を検証できるようにする。</li> </ul>
----	--

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

3年生から5年生までの学習内容を確認する記述のテストを学年末に行い、正答率80%を達成基準とする。

- 7割の児童は、自然事象や現象を検証できるようにするために、問題、予想、考察、結論を自分の言葉で説明したり、友達と話し合って実験の結果から考えられることについてまとめたりすることをできるようにさせる。